

## 令和7年度 学校評価 柏原中学校パワーアッププラン

### 1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	【学校教育目標】 『 ころ豊かで、自立する生徒の育成 』 ～ 楽しく学び合い、笑顔で支え合い、元気に鍛え合う柏中生 ～ 【めざす生徒像】 ① 学んだことを活かせる生徒 ② 主体的な生徒会活動や生活集団づくりを通して成長する生徒 ③ 目標をもって努力する生徒 【あるべき教師像】 ① どのような学力をつけさせるか、どう学ばせるかを考え、授業改善に取り組む教師 ② 自治能力を育て、生徒と共に活気ある学校づくりや地域への発信を進める教師 ③ 生徒の心に寄り添い、励まし、自己肯定感を育てる教師
本年度の重点目標	①楽しく学んで活用する力を育てる ②生徒会活動を通して主体性や協働する力を育む ③生徒の個性や能力が十分に発揮できる環境づくり

### 2 自己評価 (達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	自治的活動の充実	自治的活動等を通じて、生徒からの意見を表明する機会を確保し、それらの提案も生かした学校運営を行う	A	今年度の学校教育目標には、生徒の意見を反映し、「楽しく」、「笑顔で」、「元気に」という言葉を新たに加えてつくることができた。生徒会のスローガンも「笑華爛漫」にきまり、学校全体が「笑顔」というキーワードで統一され一体感を感じることに繋がった。また、生徒会活動や行事、熟議を通じて、生徒が意見を表明する機会を数多く確保することができた(今年度は、生徒会がICTを活用し、随時投書による意見も募集することができた)。今後も広く生徒が意見表明できる機会を確保し、その提案等を取り入れながら学校運営を行っていきたい。 このような取組もあり、主体的に自治的活動に取り組んでいると回答した全校生徒の割合が約87%であった。
	保護者・地域住民との連携	市内中学校での唯一の地域学校協働活動推進員の配置校として、学校運営協議会を核とした地域・学校・家庭の連携を強化する	A	今年度も昨年に引き続き柏中熟議を開催し、柏原地域についてのお題を設定し、地域、保護者、学校、生徒の異なる視点からそれぞれの意見や考えを交流する機会をもつことができた。また、地域学校協働活動推進員が中心となり、授業支援への地域の方の参加や地域行事への生徒ボランティアの参加も積極的に推進することができた。今年度から柏中ボラ活と名付けて持続可能な取組となるように計画的に参加体制や組織体制を整えることができた。
教育課程	授業改善の推進	個人思考の時間を確保した上で、ペア、グループなど生徒相互の効果的な学び合いと生徒が発信する機会を取り入れる	B	「教師が教える授業」から「生徒が主体的に学び、教師が伴走する授業」へと転換を図ることを目標に掲げ授業改善の取組を進めてきた。ほとんどの授業の中で、生徒が主体的に活動する時間を確保することができつつある。生徒対象の学校評価アンケートでは、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」という設問に86.6%の生徒が肯定的な回答をしている。授業だけでなく、生徒集会等でもペア・グループでの話し合いをいれるなど、学校全体としての意識は高くなっている。ただ、教師個人による授業改善が中心となっており、組織としての取組となるように学力向上委員会等が中心となって取組を推進する必要がある。

課題教育	キャリア教育	アントレプレナーシップ教育および探究学習の推進	B	<p>アントレプレナーシップ教育および市研究指定「丹波市主体的な学び手（自走者）の育成実践事業」のもと総合的な学習の時間を中心として探究学習に取り組んだ。「過去」「現在」「未来」と学年に応じてテーマ設定を行いグループごとに課題解決に向けて取り組むことができた。外部からコーディネーターを招聘するとともに、担当が先進校視察を行いながら持続可能な取組となるように初年度の実践を終えることができた。生徒が、1年間の研究の成果を共有するための発表の場をどのように設定するのかに課題が残る。成果としては、地域人材を効果的に活用することで地域課題を中心に据えた探究的な学習へと繋げることができた。</p>
------	--------	-------------------------	---	--

### 3 学校関係者評価

- ・今年度については、地域の祭事である「厄神際」で探究学習の成果をグループ毎にまとめた壁新聞を掲示することができていた。多くの地域の方々へに学校での学習内容を見てもらうことができ大変良かった。また、内容を見せてもらったが、どのグループも良い成果を得られていると感じた。さらに、別の機会を利用し、他地域でも掲示発表できると良いと思う。このような取組によって、校区内の2地域が中学校を介してより強くつながることになると思う。
- ・市内中学校で唯一の地域学校協働活動推進員の働きが大きいと思う。ボランティア活動の募集案内を積極的に周知することで、これまで興味のなかった生徒も活動に参加することができているようなので、この取組を継続してもらいたい。
- ・地域人材の活用については、まだ地域に余力があるように感じる。地域の方々への広い呼びかけと、活動があるときには、新聞社を呼ぶなどして、地域住民の方々へ活動の様子を記事にして発信してもらうことで、さらに活動が活性化されるように思う。このような広報活動により、参加した生徒にとっても大きな励みに繋がるように思う。
- ・「教え込む授業」から「生徒が主体的に学ぶ授業」への転換をさらに進めてほしい。今年度は、個人の取組であるということなので、次年度については、是非組織的な取組となるようにしてもらいたい。具体的な取組としては、互いに参観授業をする中で、授業者が予め重点的に取り組んでいることを伝え、参観者が、授業をみる視点を持ち参観するのが良いのではないかな。
- ・今年度、アンケートの結果を見る中で、生徒・保護者の満足度がとても高いように感じる。悪い部分を断ち切ってこれからもより良い学校運営を進めてもらいたい。

### 4 次年度の改善の方向性

- ・生徒が主体的に学校生活を送るうえでも、生徒が参加する熟議を継続して開催し、生徒が意見表明する機会を確保する。このことにより、大きな成果を期待するのではなく、地域、生徒、保護者、学校がそれぞれの視点で意見交流することで、相互理解を深め、互いへの壁が低くなることを一番の目的として継続開催したい。
- ・次年度においても、地域学校協働活動推進員の協力のもと、地域と学校の連携を図る。授業支援については、持続可能な取組となってきている。「柏中ボラ活」については、組織的で持続可能な取組となるように、先を見通すとともに広報活動も大切にしながらか計画的に推進を図る。
- ・授業改善については、個人の取組から組織としての取組となるようにする。その際、授業参観の視点づくりを大切にして、参観者の見る目を育てることに重点を置きながら、教科の枠を越えた取組となるようにする。
- ・市研究指定「丹波市主体的な学び手（自走者）の育成実践事業」が最終年を迎えることから、探究学習の取組については、研究推進担当が中心となり、3年間を見通しながら、学校全体として持続可能となるように組織的な取組を推進する。

令和 8年 3月 6日

学校名 丹波市立柏原中学校  
校長名 平瀬 憲利

